

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	まちづくり部地域づくり課		■担当係	生活安全係
■評価事業名称	少年センター運営事業			
■事業開始年度				
■評価事業コード	090100 - 314	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	04 美しい環境と心を守り育てるまちづくり		
	■基本施策	03 安全・安心な地域社会の構築		
	■施策	05 防犯対策の推進		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	少年の非行防止活動を行い、健全育成を図る。運営委員会等、少年センターの運営に関する事務、少年補導員の委嘱及び研修、街頭補導の計画立案・実施。少年センター報の発行、青少年問題協議会・青少年育成委員関連事務			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	少年センター運営事業	20歳未満の少年	・少年センター報(6回発行)・教育福祉連絡会議(12回)	・少年センター報(6回発行)・教育福祉連絡会議(12回)
02	街頭補導実施事業	20歳未満の少年	・補導活動の実施・補導員報の発行・補導員研修会の実施	・補導員数 157人、専任補導員2人・補導巡回実施回数 491回・補導活動参加延人員 925人・補導人員 3人・補導員報の発行 年3回
03	青少年問題総合協議会事務	青少年	・青少年問題協議会開催	・青少年問題協議会開催

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費	4,744	4,363	4,943	4,995	
人件費	3,426	3,535	3,969	5,541	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	8,170	7,898	8,912	10,536	

4. 評価指標等の状況

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	少年センター報の発行回数	12回	12回	12回	6回	
02	少年補導員研修会の実施回数	2回	2回	2回	2回	
03	市内における刑法犯少年検挙件数	12人	8人	9人	3人	岩手県警の資料による
04	街頭補導活動回数	384回	344回	446回	491回	

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

問題点・課題等

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

年間活動回数を増加させて、より充実した補導活動が展開できるように検討していく。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了